

3R瓦版（3月号）

子供の未来の為に...

冒頭より私事で恐縮ですが、この2月に待望の子供が生まれました。何とも可愛い笑顔、泣き声、仕草...既に自他共に認める親バカになっています。子供の持つ癒しの力は大きく、一日の疲れが一瞬にして飛んで行きます。

この子はどのように育つのか、スポーツは何をやるのか...などと、子供の将来に思いを馳せている内に、環境に携わる者としてふと浮かんだ事がありました。『親として、現代を生きる者として、子供の未来を守る事が出来るのだろうか?』今当然の様に出てくる事が、我が子が私の年齢を迎えた時に同様に出来ているとは限りません。

毎日の暮らしの中で、環境について考える機会は意外と多くあります。京都市内のスーパーの買い物袋が有料化され、私の家庭ではマイバスケットを使用しています。京都市ではごみ半減を目指し、「しまつのこころ条例」を昨年10月にスタートさせました。私達が日々排出するごみの行き着く先...クリーンセンターも処理できる能力に限界があります。

総量抑制の第一歩として、平成18年10月に家庭ごみの有料指定袋制が導入されました。1リットル当たり1円を支払って、燃やすごみの黄色い袋を各家庭が購入しています。我が家でも雑がみを分別する様になって、今まで45リットルのごみ袋を使用していたのが、20リットルで済む様になりました。改めてごみに占める紙類の多さを実感しています。集めた雑がみは月に一度の町内古紙回収に出し、家庭内でのごみの半減に成功しています。

昨年当施設で実施したイベントに祇園祭でも採用されている『京都市リユース食器』を2回導入しました。上記条例で事業者にイベント開催時に「分別環境の整備」が実施義務化、「リユース食器の導入」が努力義務とされています。使い捨ての食器を使う方がコストも手間も掛かりません。しかし京都市のエコイベントに登録する事により、導入費用の半額の助成金が支払われますし、職員や来場者が環境について考えるきっかけを得る事が出来ると思います。

今までのケースを鑑みて、将来のごみ処理には、今よりも高いコストを払ったり、更に制約が出て来るでしょう。現代の環境保全の為に実施している事が、ゆくゆくは子供の未来を守る事になるかもしれない...大げさではなく『ごみを今と同じ水準で捨てる権利を我が子の世代に残してあげたい』そう思います。その為に毎日当事者意識・長期的視点を持って、“ごみにその想いを込めて”捨てなければなりません。

一日何回もある「ごみを捨てる」という行動の中に、個人の意識や習慣・人柄が表れます。他人事にせず分別ルールを意識しているか、他の人がごみを入れやすいように嵩を減らしているか...捨てたら終わりではなく、“自らがごみを捨てた後やその周辺”に想像力を働かせ着実に実行する事が、ごみの半減や将来世代の持続可能性に向けて重要なのではないのでしょうか?

私も両親から学んだ様に、生まれて来た我が子に、少しずつ環境負荷削減の必要性を、毎日の生活の中で教えて行きたいと、安らかな寝顔を見て考えている今日この頃です。

社会福祉法人嵐山寮 環境管理責任者 加藤 友孝



© 2015 フジコ イトウ All Rights Reserved.

RepairFactory (有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見220番地

tel : 0774-66-6254